

潮と風に運ばれた人々：

ラテンアメリカ世界を巡る『グローバル経済圏』の形成と変容を考える

日時：2023年12月9日（土）13時30分～17時30分
参加費無料・事前申込制・Zoomによるオンライン開催
使用言語 日本語

<講座案内>

本研究講座では、先スペイン期から19世紀に至るヒトの動きと、それがアメリカ大陸、とりわけラテンアメリカ世界の経済圏の構築、維持にどのように作用したのかをさまざまな視点から考える。具体的には、先スペイン期の大陸内経済圏の構築に端を発し、16世紀以降ヨーロッパ諸国のアメリカ大陸の進出に始まる相互の政治的・経済的せめぎ合いの中で、太平洋と大西洋との関連を見据えつつ、ラテンアメリカ世界を舞台とした「グローバル（地球規模）経済圏」の有り様を分析する。ここでは、ヨーロッパ各国の役割に加え、その経済を支えた商人や職人たち、さらには商品として扱われていた奴隷を含むモノに焦点を当てたい。また、交通手段として風と潮に依存しながらの船の交易における時間的、量的側面などの側面にも目を向ける。

また、19世紀以降の交通手段の発達やラテンアメリカ諸国の独立を背景にして、それまで機能していたグローバル経済圏が新たなナショナリズムのもとでどう変容していくのかを、カリブ海地域に焦点を当てつつ具体的に見ることで、植民地時代に構築された「グローバル（地球規模）経済圏」の原型が、どのように現代のものに包摂されていくのかについての具体的プロセスを検証したいと思う。

<プログラム>

開会の辞 (13:30)

発表 (13:35-16:50)

- 13:35～「コスタリカ太平洋側南部を中心とした古代のモノの交流—古代メソアメリカと古代アンデスをつなぐ川と海の道—」
南博史（京都外国語大学教授）
- 14:10～「コロンブスはポルトガルで何を学んだのか—潮と風の秘密をめぐって—」
合田昌史（京都大学教授）
- 14:45～「大西洋奴隷貿易とラテンアメリカ—19世紀ブラジルを中心に—」
布留川正博（同志社大学名誉教授）

休憩（10分）

- 15:30～「『海の道』から読み解く19世紀米墨戦争前夜のメキシコ」
牛島万（京都外国語大学准教授）
- 16:05～「南米大陸北部の空間のナショナリズム—大西洋とカリブ海をつないだアマゾン川の航行をめぐって—」
住田育法（京都外国語大学名誉教授）

休憩（10分）

質疑応答を含む全体討論（16:50～）

総合司会 フェリッペ・モッタ（京都外国語大学講師）

閉会の辞（17:30）